

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
国語	- 音読や音読発表に意欲的に取り組む児童が多いが、正しく内容を読み取ったり、順序を意識しながら文章を書いたりする力に個人差がある。 - 漢字やカタカナ、促音、拗音、助詞、句読点などの習熟に個人差が見られる。 - 課題に対する自分の考えをもったり、自信をもって発表したりすることのできる児童が一部に限られる。	- 読書活動の機会を日常的に設定し、自分の考えを順序立てて適切に表現する力や語彙力を向上できるようにしていく。書く活動では、手本を見せて視写するところから、段階を追ってスモールステップで指導し、書くことへの抵抗感を軽減していく。 - 漢字練習には日常的に取り組ませ、定期的に小テストを行いながら定着を図る。文章を書く際は、読み直しをして誤りを自分で見つけられる力を育成するとともに、スパイラルに繰り返し練習することで正しい表記を身に付けられるようにする。 - ペアやグループなど、考えを交流する場を意図的に多く設ける。個人の考えの深化や新たな気づきを促す中で自信をもって発表できるようにしていく。
算数	「できた」「わかった」という喜びを感じながら意欲的に問題に取り組む児童が多い。繰り下がりのあるひき算の筆算では、学習の習熟に個人差が見られ、苦手意識をもっている児童もいる。 「量と測定」領域（長さ・かさ・時刻と時間）において量感が十分に身に付いていない。 - 文章問題で、正しく立式できない児童がいる。	- ドリル学習や練習問題に日常的、継続的に取り組ませ、計算技能を確実に定着させる。 - 水のかさを実際に量ったり、身近なものの長さを計ったりする体験的な活動を取り入れ、量感を身に付けさせる。 - 文章の中の大切な言葉や数を捉えられるようにするとともに、数学的な活動を多く取り入れ、図、言葉、式をつながながら、演算決定ができるように指導を行う。
生活	- 身近なことや植物の成長などに興味をもち、意欲的に活動できる児童が多い。 - 身近なことや植物の成長などの様々なことへの気づきに個人差が見られる。	- どんなことに気付けばよいかが児童が分かるように、活動のめあてを意識させる。 - 説明をより分かりやすくする工夫を考えながら取り組ませたり、友達と交流しながら考えを広げたりする場を多く設定し、表現力を高めていけるようにする。

音楽	・リズム打ちや歌唱、演奏などに意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ・鍵盤ハーモニカの運指やタンギングなどの技能については、個人差がある。	・曲の感じや歌詞の意味を考えさせたり、様々な曲やリズムに触れさせたりすることで、さらに楽器や曲への興味や関心を高めていく。 ・演奏するときのきまりを含め、鍵盤ハーモニカの技能をスモールステップで丁寧に指導し、運指の定着を図る。
図工	・創作活動に意欲的に取り組むことができているが、さらにイメージを膨らませて作品の質を高めようとする児童は少ない。 ・学習の見通しをもてず、途中で集中力を切らせてしまう児童が見られる。 ・絵の具、はさみ、のりなどの用具の使い方や表現する技能に個人差がある。	・導入では模範作品を多く提示して児童の意欲を高める。教員や友達とのコミュニケーションを大切にすることで、イメージを膨らませられるようにする。 ・本時の流れを毎時間掲示し、見通しをもって活動できるようにする。教師の説明を聞く時間、質問してよい時間、交流や活動をする時間をはっきり区別し、それを視覚的に分かるようにする。 ・用具の扱いに慣れることや表現の仕方を理解することをねらいにした作品づくりを計画的に位置付け、定着を図る。
体育	・運動経験や休み時間の過ごし方によって、運動技能にも個人差が見られる。 ・自分の動きを振り返り、活動を工夫したり課題を見付けたりするのは難しい。	・授業では運動量の確保を十分に行う。休み時間での遊び方が分からない児童のために、体育的活動で行うような簡単な運動を紹介して遊びのレパートリーを増やし、外遊びへの意欲を高める。 ・毎時間、振り返りを行い、自分の体の動き方について確認したり、チームで話し合ったりする時間を設ける。また、次時の目標や自己の課題について考えられるようにする。
道徳	・自分の考えや思いをもつことや、その考えや思いを深めたり、これからの自分のこととして置き換えて考えたりすることが難しい児童がいる。	・ねらいとする道徳的価値について、自分のこととして捉えるために、導入で自分の経験を想起させる時間を十分に確保する。また、自分の考えや思いをもち、深めるために、議論を促したり、友だちの考えに触れる機会を多く設けたりする。